

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	20-048	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol Use and Co-Use of Other Substances Among Pregnant Females Aged 12-44 Years - United States, 2015-2018 12-44 歳の妊娠中女性におけるアルコール摂取と他の薬物との併用 - 米国、2015-2018 年		
執筆者		
England LJ, Bennett C, Denny CH, Honein MA, Gilboa SM, Kim SY, et al.		
掲載誌		
MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2020 Aug 7;69(31):1009-1014. doi: 10.15585/mmwr.mm6931a1.		
キーワード		PMID
妊娠、女性、アルコール、薬物、米国		32759915
要 旨		
<p>目的： 妊娠中の飲酒は、先天性障害、行動障害、認知発達障害などの胎児のアルコールスペクトラム障害を引き起こす可能性がある。米国における妊娠中の飲酒割合および他の薬物併用について調査した。</p> <p>方法： 米国疾病予防管理センターの National Survey on Drug Use and Health (NSDUH) の 2015-2018 年データを用いた。対象者は 12-44 歳の妊娠中女性 3,006 人とした。過去飲酒（過去 12 カ月間の飲酒）、現在飲酒（過去 30 日間に少なくとも 1 回の飲酒）、多量飲酒（過去 30 日間に少なくとも 1 回は 4 杯以上の飲酒）、その他の薬物併用は自己申告に基づいた。全期間および妊娠期間別にそれぞれの割合を推定した。</p> <p>結果： 過去飲酒は 64.7%、現在飲酒は、妊娠第 1 期 19.6%、第 2・3 期 4.7%であった。多量飲酒は、妊娠第 1 期 10.5%、第 2・3 期 1.4%であった。現在飲酒者のうち、薬物併用者は 38.2%であった。アルコールと最も多く併用されたのは、タバコとマリファナであった。</p> <p>結論： 自己申告による妊娠中の飲酒は、第 2・3 期より第 1 期の方が高く、妊娠初期に他の薬物の併用割合も高かった。将来の母子健康のために、妊娠前からのスクリーニングと介入および必要に応じた治療が必要である。</p>		